

生物多様性の保全

基本的な考え方

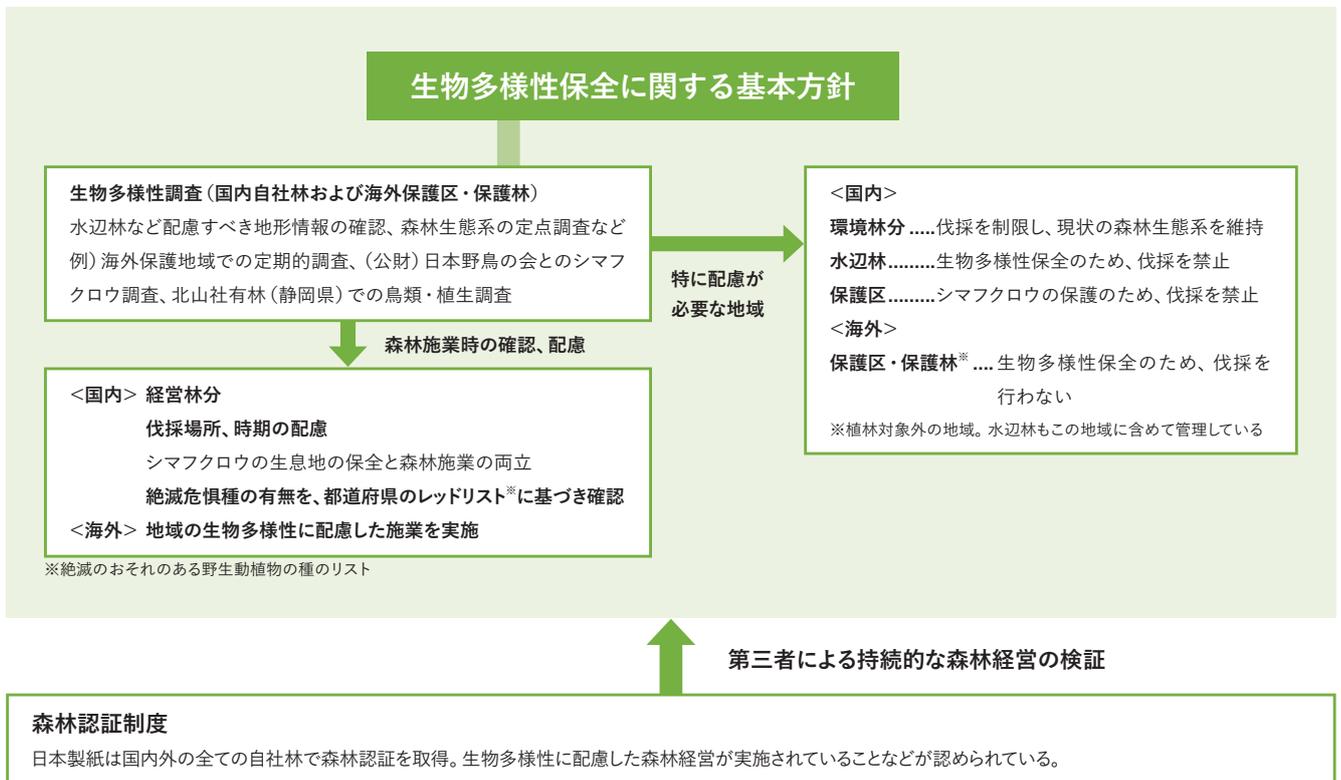
当社グループの事業基盤は森林資源であり、生物多様性を育む森林に対し、大きく依存していると同時にさまざまな影響を与えています。森林の根源的な機能とされているのが「生物多様性の保全」です。また、森林は、土壌の保全、水源涵養といった環境保全機能を有しており、それらが総合的に発揮されるためには、森林がもたらす恵みを持続可能な形で活用していくことが求められます。

そこで当社グループでは「環境憲章」の理念に「生物多様性に配慮した企業活動」を掲げ、さらに2016年には「生物多様性保全に関する基本方針」を制定し、本業を通じて生物多様性の保全に取り組むとともに、自社の資源や技術を生かす活動を進めています。

→生物多様性保全に関する基本方針

<https://www.nipponpapergroup.com/csr/policies/>

当社グループの生物多様性保全の取り組み(概略)



生物多様性保全の取り組み

- 日本製紙グループは、紙などの製造工程においても、排水処理やGHGの排出抑制など生物多様性に与える影響の低減に努めています。
- 当社グループ製品の原材料である木質資源を、適切に管理された森林から持続可能な形で調達しています。
- 当社グループは、国内外の自社林において持続可能な森林経営を行っています。
- 水辺林など配慮すべき地形情報の確認や、森林生態系の定点調査などを実施しており、生物多様性を保全するために伐採を行わない保護区・保護林を設定するなど、経済的に活用する森林と、環境保全のための森林を適切に管理しています。

事例 シマフクロウ[※]の生息地保全と事業の両立～(公財)日本野鳥の会との協働(日本製紙)

当社は、2010年に(公財)日本野鳥の会と野鳥保護に関する協定を締結し、北海道内の社有林にて保護区を設定しました。2015年には、釧路地方の社有林で、森林施業の規模や時期に配慮するなど、シマフクロウの生息地と森林施業を両立する基準を新たに設定しました。また、社有林内における生物多様性に関する共同調査を継続して実施し、データを蓄積するとともに、2020年11月には人工巣箱を設置し、生息地の保全だけでなく、シマフクロウの繁殖を支援する活動も行っています。2021年2月には、日本野鳥の会と10年以上にわたり継続してきた取り組みが評価され、北海道庁から「北海道生物多様性保全実践活動賞(通称:未来へつなぐ!北国のいきもの守りたい賞)」を受賞しています。

※1971年に国の天然記念物に指定され、環境省のレッドリストで絶滅危惧ⅠA類(CR)に指定



提供:(公財)日本野鳥の会

事例 海外における生物多様性調査の実施(ブラジル アムセル社)

アムセル社(ブラジル)は、約30万ヘクタールに及ぶ社有地のうち約17万ヘクタールを保護区としています。保護区には多くの野生生物が生息しており、希少種・絶滅危惧種が存在する保護価値の高い森林も含まれています。

生物多様性保全への取り組み

活動	内容
定期的水質調査	植林地内に水質・水位モニタリング設備を設置し、定期的に検査。
社有地における野生生物の生息状況調査	生態学者と共同で社有地内の野生動物や魚類の生息状況を調査、モニタリングを実施。
保護区域内の植生モニタリング	保護区域内で植生のモニタリング調査を継続して実施。



野生動物のモニタリング



植生調査

事例 「シラネアオイを守る会」の活動支援（日本製紙グループ）

「シラネアオイを守る会」は、群馬県の絶滅危惧Ⅱ類に指定されているシラネアオイを保護するために、群馬県立尾瀬高等学校と群馬県利根郡片品村が中心となって2000年12月に発足しました。2014年4月にはこれまでの功績が認められ、『「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰』を受賞しています。

当社グループでは、同会の設立当初から、地元で日本製紙の菅沼社有林を管理する日本製紙総合開発が運営面で支援し、シラネアオイの群生復元のために社有林の一部を開放しています。2002年からはグループ社員がボランティアとして、植栽や種子採取補助などの作業活動に参加しています。



尾瀬高校生とともに植栽地の手入れ

事例 西表島で外来植物の駆除活動 ～NPO法人西表島エコツーリズム協会との協働（日本製紙）

当社は、2017年8月に林野庁九州森林管理局沖縄森林管理署と協定を締結し、西表島の国有林約9ヘクタールで、西表島の自然や伝統文化を保全・継承するための活動を行っている「NPO法人西表島エコツーリズム協会」との協働により、外来植物の駆除などの森林保全活動を行っています。

西表島には日本最大規模のマングローブ林や亜熱帯性の広葉樹林などで構成される森林が広がり、国の特別天然記念物のイリオモテヤマネコ（絶滅危惧ⅠA類）をはじめとする貴重な野生動植物が生育・生息しています。

しかし、多数の外来植物が広域に侵入していることが確認されています。当社は、西表島で地元の方々と一緒に外来種であるアメリカハマグルマ※の駆除活動を行うとともに、再生状況の調査を継続して実施しています。

※アメリカ大陸原産のキク科の植物で、法面などの緑化用として沖縄県内各地に導入された。繁殖力が旺盛で、生態系への影響が懸念されている。



駆除したアメリカハマグルマ

事例 コカ・コーラ ボトラーズジャパンとの森林管理における相互連携（日本製紙グループ）

当社と当社グループの丸沼高原リゾートはコカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社と森林資源および水資源の保全・保護に関する相互連携に合意し、日本製紙グループの「森・木」、コカ・コーラ ボトラーズジャパンの「水」に関する知見・経験を活かし、「豊かな水」を育む「健やかな森」を保つための取り組みを協働で進めています。コカ・コーラ ボトラーズジャパンの埼玉工場と岩槻工場の水源域に位置し、丸沼高原リゾートがレジャー事業を展開する「丸沼高原」がある、群馬県片品村の当社菅沼社有林の一部区域(1,746ヘクタール)において、水源涵養力確保のため、森林保全・維持管理の活動を推進していきます。